

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-155	21-098	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Prevalence of insomnia symptoms and associated risk factors in UK Biobank participants with hazardous alcohol use and major depression アルコール過多とうつ病を有する UK Biobank 参加者における不眠症の頻度と関連因子の同定		
執筆者		
Kolla BP, Biernacka JM, Mansukhani MP, Colby C, Coombes BJ.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2021 Dec 1;229(Pt A):109128. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2021.109128.		
キーワード		PMID
アルコール過多、うつ病、不眠症		34773885
要 旨		
<p>目的：アルコール過多と大うつ病を有する UK Biobank 参加者において、不眠症の頻度を明らかにし、関連因子を同定する。</p> <p>方法：UK Biobank 参加者 (n = 55,000)は、大うつ病 (n = 5612)、アルコール摂取障害 (n = 15,893)、大うつ病+アルコール摂取障害 (n = 3738)、コントロール群 (n = 29,511)の4群に分類された。一般化線形モデル (GLM) を用い、睡眠障害の割合と睡眠時間を4群で比較し、睡眠障害の臨床的予測因子を検討した。</p> <p>結果：不眠症の頻度は、大うつ病群で 39.2%、アルコール摂取障害群で 25.9%、大うつ病+アルコール摂取障害群で 41.1%、コントロール群で 25.6%であった。不眠症の頻度は、年齢、性、人種等の補正後でも4群間に有意な差が認められた。不眠症と関連のある因子は、加齢 (オッズ比 [OR]=1.33 [10歳増加毎]; p < 0.0001), 女性 (OR=1.39; p < 0.0001), 肥満 (OR=1.17 [vs 標準]; p < 0.0001), 神経症スコア高値 (OR=1.13; p < 0.0001), アルコール飲酒量 (OR=1.01 [1サービング増加毎]; p < 0.0001)であった。</p> <p>結論：アルコール過多と大うつ病を有する UK Biobank 参加者において、不眠症の頻度を明らかにし、関連因子を同定した。</p>		